

趣旨と参加へのお誘い

上杉謙信は稲作、越後上布、鉱山開発や水運などの財政力を背景に春日山(現在の越前市)に拠り、「義」を重んじ、領土欲を持たない希有な戦国武将で、その率いる軍団は『戦国最強』と畏られました。

次代の上杉景勝と執政・直江兼続(ともに『上田の庄(南魚沼市・湯沢町)』出身)も「義」の心を受け継ぎ、後の「武士道」の規範となり、上杉家は永く「武の名門」として知られます。

「お発ち飯」というのは、上杉軍の慣習で、戦いにのぞむとき大量の飯を炊き、酒樽を用意し、贅沢な料理をふるまうとされます。上杉家中では、飯を炊く大釜が据えられることが、すなわち出陣の前ぶれとなり、士卒は合戦準備を整え、奮い立ったといわれます。「上杉(長尾氏)」、「直江(樋口氏)」を生んだ雪国の精神風土は、今もこの地にいきづいていと信じます。

いにしえの上杉軍団の慣習に倣い、各々のふるまいにて、旅の安全と和合をお祈りするお食事を提供できぬものかと、直江兼続ファンが集まり企画しました。

料理店・旅館・飲食関連業の皆様へ、イベント主催者様へ

【加盟と参加へのお誘い】

今は合戦などありませんが、『戦国最強・上杉家』の慣習に倣い、訪れた方の旅の安全と和合を願い、各々のお店の「心」と「技」により、歴史ロマンの匂いを感じながら気持ち良くお食事を楽しんで戴けたら...、との考えにいたり、「越後 お発ち飯」の名称をもって見切り発車ながら昨年春、商標登録の申請を致しました。

私たちは、良質で高い水準のお食事を、現代版「越後 お発ち飯」と認定し、旬のものや地のお酒を召し上がって頂くことで、地域の魅力を高め、商業分野の発展のみならず、農業や水産業の安定成長をも願っています。

認定の基準は定めませんが、基本は「旬の地場の素材」で「良質・美味」「越後の伝統」そして「白米と釜」です。

本構想を温めているところに、2009年の大河ドラマに「天地人」火坂雅志著(NHK出版)が決まりました。主人公は、戦国時代後期から江戸時代にかけて生きた第一級の人物・直江兼続です。南魚沼市や米沢市をはじめ、上越市、長岡市など、熱意溢れる方々のご努力が結実したものと、心よりお祝いを申し上げまた敬意を表す次第です。

また、「天地人」放映開始の年度は「トキめき新潟国体」が開催されます。越後の良いものを大いに発信する機会でもあります。イベントや各種の振舞いなどで、地域の本物を手をかけてお出し下さるなら、是非「越後 お発ち飯」の名称をご利用ください。短期イベントの基準は、料理飲食店とは別に簡略化したものを考えております。お問い合わせ下さい。今年、新潟県中越前大震災復興基金から助成を頂き、年来の願いの実現に向けて踏み出しました。ご賛同ご協力をお願い申し上げます。

負けないぞ！ 越後“義”の道北の武士(もののふ)街道 歴史小説ファンであり、また郷土出身の「直江山城」の後輩？として、迫る“北陸新幹線開業ブーム”と、“東京 長野 北陸 京阪 東海 という高速周遊ルート”に対する策はないものか。と、仲間で話しておりました。しかしその間も、震災に豪雪・少雪、今年に来てまた震災と原発不安。越後はまさに踏んだり蹴ったり、泣きっ面に蜂のありさまです。

あきらめないなら、自らを見つめ信じて努力するのみです。上杉家と直江兼続が築き上げた“義”をまさに第一義とする「サムライ」や「ブシドウ」が世界で通ずるように、越後の米も酒も、山野の恵みも海の幸も、およそ土臭い越後人が心をくだき手をかけたもの「越後お発ち飯」は、世界に通用すると信じます。

越後から、会津、米沢へ、義を重んじた「武の名門・上杉家と直江兼続」の旅、さらに米沢ゆかりの伊達家へと...。北の武士(もののふ)周遊国際観光コースだって開けるかも知れません。

参加にあたり新たな投資は必要ありません。要るのは、気持ちと努力・工夫だけです。共に勇気の一步を！